

看護・保健部門

受賞者： さかもと 坂本 フジエ（93歳）
一般社団法人和歌山県助産師会



1924年和歌山県に生まれ、14歳から大阪の歯科医師宅に住み込みで働きながら、看護婦教育所や助産婦教育所に通い、日本でも初期の看護婦免許および助産婦免許を取得した。終戦を迎えた21歳の時に故郷に戻り、医師の手伝いとして出産に立ち会うようになった。戦後ベビーブームが訪れるとともに、20代前半で坂本助産所を開設。一児の母となり嫁ぎ先の農家の仕事にも携わりながら、自宅を改修して入院もできる助産所へと育て上げた。

助産師のもとで出産するケースがほとんどだった時代から、医師の介在のもと病院で出産する妊産婦が大半という時代に変化した。そんな時代にこそ、自然の力を徹底して尊重し、出産は日常生活の一部であると説く坂本氏への支持は厚い。国内最高齢の現役助産師で70年という長きにわたり出産を支えてきており、今まで取り上げた生命の数は4000人にもものぼる。

昔に比べ恵まれた環境でありながら、子育てに悩む親は年々増えている。子育てにつまずき相談に訪れる親たちのために、助産所の隣に「まなび舎」を開設した。パパママ教室、おしゃべりルームなどを開き、コミュニケーションの場を提供している。長年の経験から、0歳児の子育ての重要性を説き、出産の現場から肌で感じることを伝えるべく活動している。出産、子育て相談、中高生への性教育など地域に根差した助産師として、93歳を迎えた今も現役で活躍している。

推薦者： 石井 晃 紀伊民報 編集局長